
令和5年度 第2回周南市環境基本計画推進委員会 議事要旨

- 1 期日 令和6年3月13日(水) 午前10時から正午まで
- 2 場所 周南市役所本庁舎 1階 多目的室
- 3 出席者 委員(15名)、事務局(5名)、【委託業者】一般財団法人九州環境管理協会(2名)
- 4 議題
 - ・第3次周南市環境基本計画の策定について
 - ・その他
- 5 配付資料
 - ・配席図
 - ・委員名簿
 - ・資料1 第3次周南市環境基本計画 計画策定に係る調査結果
 - ・資料2 第3次周南市環境基本計画 目指す環境像(案)について
 - ・資料3 第3次周南市環境基本計画 骨子案
 - ・資料4 実施スケジュール

6 内容

1 開会

- ・事務局より挨拶。
- ・委員の出席状況について、事前に出席の連絡を受けていた委員のうち1名欠席。全委員20名のうち15名が出席しており、周南市環境基本計画推進委員会規則第3条で定める定足数の過半数に達していることから、令和5年度第2回周南市環境基本計画推進委員会が成立したことを事務局が報告。

2 周南市環境生活部長あいさつ

- ・周南市環境生活部長より挨拶。

3 議事

- ・ここからの議事進行は委員長にお願いします。
 - ・委員長より挨拶。
- (1) 第3次周南市環境基本計画の策定について【資料1】【資料2】【資料3】
- ・【資料1】【資料2】【資料3】について一般財団法人九州環境管理協会から説明。
 - ・【資料4】について事務局から説明。
 - ・質疑応答
- 委員長： 資料1～3で質問はないか。

- 委員： 資料 2 の目指す環境像で「住みたくなるまち」と出てくるが、今住んでいる方がずっと住みたいと思うようなまちにしたいのか、周南市以外の方が住んでみたいと思うまちにする、どちらの意味合いなのか。
- 委員長： どちらもあると思うが事務局、どうか。
- 九州環境管理協会： アンケート調査で市民に伺った結果であるため、基本的には市民が今後も住みたくなるという意味で回答していると考えられるが、一部には新しい方に入って来て欲しいというニュアンスで回答した方もいると思われる。
- 委員長： 他に質問はないか。
- 委員： 私自身も周南市に来て自然環境分野に取り組んでいるが、説明を聞いて知らなかった部分もたくさんあった。アンケート調査では自然環境分野の重要度が低いという結果となっているが、これは、今まで自然環境に関する取組が少なく普及啓発活動が十分ではないせいではないか。まず普及啓発活動から始める必要があると思う。行政の取組は、重要度の高いものから取り組むと思うが、重要度の低いものについては取組の優先度が下がるのか。
- 事務局： 重要度の低いものも当然取り組まなければならないが、財源や人的資源等もあるので、優先順位は、重要度が低く現在満足しているものについては現状維持という形になる。取組については満足度が低くて重要度が高いものに力を入れていくことになると思う。
- 委員： その場合、自然環境分野は現状維持となるのか。
- 事務局： そうである。即効的な取組というよりは長期的な取組となる。
- 委員長： 自然環境分野はネイチャーファーストといわれ、経済も含めた人類の活動全体の基盤として重要である。市民からの認知度、満足度を別にしても、長期的な取組により改善していく必要があるため、計画を作る上でも考えてもらいたい。
- 事務局： 市として全ての分野を幅広く考え、認識しながら計画づくりに取り込んでいく。
- 委員長： 他にないか。
- 委員： 生物多様性の認知度が低いとアンケート結果を見て感じた。言葉自体は学生の時に習う言葉なので知っているが、自然に接する事が少なく、実生活の中で実感することがないのではないか。私達人間も生物多様性の中の一つということ、周南市の徳山動物園を利用することで実感・体験、感じる事も出来ると思う。認知度が低い原因をどう考えるか教えて欲しい。
- 事務局： アンケート結果は現状の市民の捉え方と考えている。第 3 次環境基本計画は、生物多様性地域戦略として位置付ける予定で作業を進めており、生物多様性は大きなテーマとなる。実際の事業や取組は、生物そのものを守っていく保全活動や、伝えていくこと、地域の人々が守っていく等、いろいろな視点、方法がある。それらを計画の中に盛り込み、市民を巻き込んだ流れをつくっていききたい。
- 委員： 「環境目標を示すキーワードについての意見をうかがいたい。」との

ことだが、カタカナの言葉が大変多いと思う。ウェルビーイングという言葉について、10年後は一般的になっているかもしれないが、パブコメで初めて目にする市民がどう捉えるか分からないという懸念がある。ワンウェイプラスチックは日本語でもよいと思うが、横文字が多いと一般市民からするとわかりづらく、浸透性が悪いと思う。

○委員長： いわゆる共通言語になっているかどうかである。市民の中に浸透しているかどうかは、非常に重要な視点である。ウェルビーイングという言葉をおぼえていない方が多いのであれば、それを目標に掲げるのはどうか、ということもある。ただ、生物多様性や気候変動など、環境教育などを通じて浸透させていかなければならない内容も多くある。生物多様性も、随分昔に環境計画の一つの柱に入れたいといけなさと提案した。環境分野が専門の方には当たり前で、市民に浸透していない言葉を敢えて掲げて、これが当たり前になってくれば、共通言語になっていく。敢えて掲げることで、改めて説明したり、調べるきっかけとなったり、普及させるための良い材料となる。色々な意見を出してもらい、最終的には整合をとりながら調整していくので、忌憚のない意見をお願いしたい。環境像についても4つの案で決まりということではないので、入れて欲しい用語、入れない方がよい用語について意見をいただきたい。また、施策の優先性を重要度、満足度だけではかるのではなく、別の座標軸を入れてもよいと思う。

○委員： 資料1の7ページの「未来に残したい環境」を市民アンケートから抽出しているが、これだけでは問題があるのではないと思う。黒岩峡、太華山はご存知の通り自然公園に指定される地域である。まずはここを一番重要視するべきと思う。一般市民の意見としてこういう結果になっているが、周南市としてはどうか。

●事務局： 自然公園地域は県や国に任せておけばいいという事ではなく、市も関わって保護していかなければならない。庁内にも担当課があり、県の担当と取組の調整を行い、環境基本計画においてどのように記述するかを今後検討していく。

○委員： 21ページの騒音について。B地域の地点「久米」の調査結果が「昼のみ基準以下」となっている年度がある。これは、今まで行われていた工事の関係でこのような結果になっていると思われる。工事は本年度で終了となるので騒音は激減してくると思うが、その辺についてはどう捉えているのか。

●事務局： 本地域については、夜間の基準値が超過となっている。

○委員： 特に問題視しないでよいということか。

●事務局： 6年間のうち、令和元年度と令和2年度は基準値を超えているが、それほど大きな値ではないと考えている。

○委員： 承知した。次に27ページの快適環境分野について、設置から約30年間を経過した都市公園の計画的な整備を行うという方向性が記載されている。これは単なるリニューアルではないと思うが、どのように考えているのか。

- 事務局： 本計画の方向性としてリニューアルを提案しているが、実際には庁内の担当部局とこれから調整する予定である。
- 委員： 37 ページ、環境教育、環境活動について。周南市では環境分野における様々な学校教育、生涯学習が実施されていると思うが、参加者数が伸びない原因として、活動がルーティンになっているのではないかと感じる。現場のニーズ等もあるため、今後は行政だけでなく教育機関（学校等）や地域の活動団体等と一体となって活動していくことが最も重要と思う。
- 事務局： おっしゃる通りである。37 ページに記載していることは市役所だけの取組で進むとは考えていない。地域の方や環境関係の方に入ってもらって進めていく姿が望ましいと考えている。計画においてどのように表現するかは今後調整していくが、委員の言われる要素は取り入れていかなければならないという認識である。
- 委員： 資料 2「目指す環境像」の「活気がある」という表現に違和感を感じる。アンケートの回答で 70 歳以上の回答率が 36.4%となっている。つまり 3 割以上の方が後期高齢者ということである。その方々のイメージが少し強いのではないかと思う。次世代を担う若者たちが本当に「活気がある」ことを望ましいと思っているのか疑問である。アンケートの結果なのでこれ以上言えないが、回答者構成も見据えた上で環境像を考えた方がよいと思う。また、資料 3 の第 2 章「周南市の概況」に「人口は減少傾向であり、今後も減少する予測」とある。これは歯止めが利かない現象であり、周南市は高齢化社会に突入している。そこを踏まえた上で環境問題も絡め、今後周南市を住みやすいまちにしていく必要がある。高齢者はもちろん若い人達も本腰を入れて考えていく必要があると思う。そのための施策であると思うがどうか。
- 事務局： アンケートは統計学的に意味のある結果であると認識しており、実際に「活気がある」が多かったのは事実である。ただし、文言としてどのように入れ込むかは考えなければならぬと思う。実際に、目指す環境像の案 1 は、事務局の中でも少し要素を入れ込み過ぎではないかという感覚を持つ者もいた。一方、人口減少については、市長自ら抗う施策を打つ必要があるとし、市全体で取り組んでいかなければならない施策である。計画では市の概況の 1 つとして示すとともに、環境分野でいかに人口減少を止められるかについても考えていかなければならない。
- 委員長： アンケートの取り扱いが難しい。高齢者の方はこれまで暮らしてきた経過に縛られる傾向があるだろうし、若いからといって活気があるとは限らない。「未来に残したい環境」についても、アンケートの回答数に縛られる必要はないのではないか。ただ単に認知度が現状で低いだけで、価値がないわけではない。計画やホームページに載せる事で、このように良い所があるんだとわかることもある。アンケートが全てではなく、別の視点も含めて今回の計画の準備を進めて行く必要

がある。

- 委員： 先程指摘があったが、若い人の回収率がよくない。興味が無く答えたくないと思ったのかもしれないが、回答を若い人に絞り、満足度・重要度のグラフを作ったら、もしかしたら傾向が変わってくるかもしれない。若者を対象とした今の軸との差が未来を考える上で重要になってくるのではないかと考える。
- 委員長： 今のデータを年齢ごとに分析することはできるのではないか。
- 九州環境管理協会： 今あるデータで解析は可能である。いただいた意見を参考に分析する。
- 委員： 目指す環境像の案について。国の学校教育に関する新たな計画にはコンセプトが二つある。一つは「持続可能な社会の作り手」、もう一つは「日本社会が目指すウェルビーイング」である。これを踏まえると、案1、案2は国の大きな方向性を踏まえて作られており、方向性としては間違っていないと思う。その一方で「持続可能な」は周知されてきているが、「ウェルビーイング」は浸透していないと思う。環境像には何かキーワード的なものを入れた方がよいと思う。
- 委員： 環境像についてコメントする。先ほどのご意見は、ウェルビーイングが浸透しているかどうかということかと思うが、現在、ウェルビーイング学会が立ち上がり、学術分野でも「ウェルビーイング」を見ているという動きが始まっている。自民党でもウェルビーイング勉強会が定期的に行われている。今は市民権を得ていなくて「キャッチーだね」と捉えられていなくても、10年後を見越した計画の方針を作っていく中で重要と思えば、敢えて入れるのも良いのではないか。それを踏まえて今回の案をみると、案2が一番わかりやすくシンプルで良いと思う。案1も良いと思うが、詰め込み過ぎていて、色々な言葉が散りばめられた感じなのでもう少し言葉を削いでいくとよいと思う。案2の「多彩な自然と先進技術」というのも周南市らしいと思う。自然環境もあればコンビナートもある、その上、水素に関する取組も先進的に取り組まれているのは魅力だと思う。案2は周南市らしいと思う。
- 事務局： 委員の言われる通り「ウェルビーイング」という言葉はまだ浸透していないが、「SDGs」という言葉も3、4年前に比べればかなり一般的になっている。「ウェルビーイング」についても、SDGsと同様の経過をたどる可能性はある。一方で、本計画の上位計画として「まちづくり総合計画」が位置付けられており、そこで目指しているものをある程度くまなければならない。環境面の計画である本計画において、どの表現を使うかを今後調整していく。委員の大方の意見から、「持続可能な」や「未来へ」という言葉を入れ込んでもよいかと思う。
- 委員長： 新しい言葉を浸透させるために敢えて使用することも有効であると思う。説明責任があるので、テレビでどンドン流したり、広報でもどンドン伝えていく。そうすれば市民権を得ることが出来ると思う。どのようにキーワードを使うかは事務局やコンサルの中で調整し、周南市

の取組のアピールになるような突破口になればよい。

- 事務局： この環境基本計画は令和 7 年度からの計画である。環境像は一番皆さんの目に触れるようになると思うので、ご指摘も踏まえた上で調整していく。
- 委員長： 庁内関係者と調整を図りながら骨子に沿って第 3 次環境基本計画を策定していく。環境像については、今言われた指摘を活かして作っていくようになると思うがよろしいか。
- 事務局： 環境像についての意見は有難い。案 1、2 の「持続可能」、「未来へ」といった要素を入れ込み、7 月の委員会で決定する。骨子案（資料 3）は 5 章構成としており、前段で市の概況を説明し、環境像・基本方針を 5 つ挙げ、4 章でその基本方針に沿った施策を示す、5 章で計画の推進を示すという見せ方としている。計画の構成について意見が欲しい。こういう要素がいるのではないか、こういう視点を入れるべきはないか、見せ方等についての意見をお願いします。
- 委員長： 骨子案についての意見が欲しいということである。環境基本計画の章立てとしてはきちんと出来ていると思う。さらに盛り込んで欲しい事、新たに変更すべき案はないか。
- 委員： 「未来へ」や「未来を創る」というキーワードを重視するなら、若者の意見を入れ、これからの未来を創っていくような学校教育等を重視した未来パートを付け足していくと計画全体のコンセプトとも整合性がとれてよいのではないか。「周南市の未来をこういう風に考えている」、「環境の未来をこういう風に考えている」、「子供はこう見ている」というパートを入れるとよいと思う。
- 事務局： 第 2 次環境基本計画では、施策の体系に加えて重点施策として特出するような構成を採用している。そこに今の意見を反映することも検討していければと思う。大枠では今の構成で、特出しするページについては今後、詰めていく。
- 委員長： 7 月の委員会までにある程度調整して出すということでよいか。他にないか。
- 委員： 「推進」と「一層の推進」の使い分けについて。資料 1 に強化のアイコンが入っている所が「一層の推進」と考えてよいのか。
- 事務局： 完全に整合しているのかの確認はしていないが、資料 3 で「一層」と付いている所は、現時点で取り組んでいる所をさらにやらなければならないという位置づけである。
- 委員長： では、これで終了とする。庁内、関係機関と調整を行い、計画策定を進めてもらいたい。次回の 7 月の委員会で話を進めていく。本委員会で意見を十分にあげられなかったという委員の方は、ぜひ事務局の方に電話等で連絡して欲しい。

(2) その他

- 事務局： 前回の委員会でのペーパーレス等の意見について報告する。資料の配付方法について皆様に意見をいただいた。これまで通り紙の資料の提供を希望する方もいるし、一部は紙で他はメールでも大丈夫という方

もいた。そのような意見を踏まえ、この委員会においてはそれぞれの希望する形に対応していきたいと考えている。今日はこの会場でプロジェクターを使って説明したが、場合によってはプロジェクターを使えない会場になる事もあるので、その場合は紙の資料も用意する。皆様の意見を聞きながら、審議しやすい形で進めさせていただきたい。

○委員長：

今後、案が出来上がったら非常に厚い冊子になると思う。それをどのように対応していくかも含めて検討する必要がある。事務局の方で適宜対応してもらいたい。よろしく願います。

4 閉会

・事務局より挨拶。

そのほかのご意見があれば、事務局に連絡をいただきたい。

次回の委員会は7月を予定。

